

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、平成30年度より賛助団体として当財団の運営にご協力いただいている住宅金融支援機構です。近畿支店地域営業第二グループ調査役の杉本敦彦さんにお話をうかがいました。



杉本敦彦さん

どのような会社ですか？

住宅金融支援機構は住宅金融市場における安定的な資金供給を支援し、住生活向上への貢献を目指す独立行政法人です。民間金融機関と提携して、全期間固定金利の住宅ローン【フラット35】を提供し、省エネ住宅などの良質住宅の普及を推進しています。

賛助団体になっていただいたきっかけは？

住宅金融支援機構では、これまで耐震改修を支援する融資は存在していたものの京町家のような建築基準法制定（昭和25年）以前に建てられた木造家屋の耐震改修を支援することは難しい状況でした。しかし、平成30年10月より、京都市の京町家への耐震改修助成制度を利用して改修する場合に融資ができるよう制度を拡充しました。京町家の耐震改修で京都市と連携する中で京都市景観・まちづくりセンターの京町家保全継承活動を知り、京町家保全継承活動への支援を更に推し進めるために賛助団体になることを決めました。京都市では行政と市民が一丸となったまちづくりが特徴的で、その橋渡しを行っているのが、「まちセン」だと思います。実際、京町家

の所有者・居住者・リフォーム工事関係者から生の声や意見を聞く機会を「まちセン」を通じて得たことは非常に有益でした。

京都のまちに対する思い

私自身は大学生の頃、西陣の近くに住んでいました。大学へ自転車で通学し、町家の街並みを日常の風景として感じていました。最近では、京町家の滅失が嘆かれています。新しいコンクリート造りのビルのなかで古くからある町家を保全継承しようとする活動の盛り上がりや町家の良いところを活かして新しい平成の町家を広めようとする気運を感じ、慣れ親しんだ京都のために自分に何かできることがないかを考えるようになりました。

私ども住宅金融支援機構は、大阪に支店を構えています。京町家の耐震改修が少しでも促進されるよう、京都市助成制度と機構融資制度を紹介するべく日々京都の街中を奔走しております。

また、【フラット35】や耐震改修以外にも、高齢のお客様向けに、ご自宅の改修や住み替えに伴う月々の負担をできるだけ軽くできるようリバースモーゲージ型住宅ローンと呼ばれる自宅を担保に改修等の費用を借りられる制度などをご用意しています。このような住宅金融サービスを通じて京都のまちづくりに貢献したいと強く思っています。

自宅を地震に強い家にした！
京都市内で耐震改修を検討中の方へ
京都市の耐震改修助成事業を利用して住宅を改修する場合、住宅金融支援機構の「リフォーム融資」がご利用いただけます。

住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency
近畿支店 地域営業第二グループ
06-6281-9281
耐震改修融資についてはこちらへ

特集 P2-3
四条町大船鉾会所改修プロジェクト
ユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞の最優秀賞受賞

- CONTENTS
- P1 京都人②の京都知らず
 - P4 織屋建探訪
 - P5 地域まちづくり・京町家の専門家紹介/ようこそ!まちセンへ
 - P6 私と京都/京都人②の京都知らず 編集後記
 - P7 賛助会員募集/ギャラリートーク
 - P8 企業・団体紹介

平成31年度賛助会員募集中!

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体のみなさま			
「京ぐらし」ネットワーク	ぐるっとVIEW.G	アルバック 株式会社地味計画建築研究所	ISETAN
「建築家と暮らし」生活サポートセンター	フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル
京町家居住支援者会議	公益社団法人京都市観光協会	be-kyoto	株式会社都ハウジング
大阪ガス	一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会	RITSUMEIKAN	京都町家をお探します。株式会社八濱(ハチセ)
株式会社アーキスタイル	京都信用金庫	SAPPORO	中藏
京都でんき	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency	

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口
上る梅津町83番地の1 (河原町五条下る東側)
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP: http://kyoto-machisen.jp

京都市景観・まちづくりセンター (ひと・まち交流館 京都 地下1階)

※センターへお越しの際は公共交通機関をご利用下さい。

グレゴリ青山 京都人の京都知らず その4 京町家に選ばれし先生

あわせな人ってどんな人だろう
それはものすごく好きなものや
「ゴッ」がある人のことだと思っ
そうたとえば
ハイ
もう
この
京町家
横綱級です!!
京町家が大好きな京都府立大大学院教授大場修先生のように...
京町家の耐震改修が少しでも促進されるよう、京都市助成制度と機構融資制度を紹介するべく日々京都の街中を奔走しております。
また、【フラット35】や耐震改修以外にも、高齢のお客様向けに、ご自宅の改修や住み替えに伴う月々の負担をできるだけ軽くできるようリバースモーゲージ型住宅ローンと呼ばれる自宅を担保に改修等の費用を借りられる制度などをご用意しています。このような住宅金融サービスを通じて京都のまちづくりに貢献したいと強く思っています。

そんな大場先生と一緒に西陣のとある織屋建の
京町家を見に行った
昔はここに機織り機が
あったんですよ
だからこんなふう
に吹き抜けなんです
へえ?
持主さんも
まさか窓ガラスの
気泡までほめられる
とは思ってなかっただろう
ちなみに大場先生は京町家
カルテ委員会と
京町家まちづくりファンド委員
の委員もなされた
いっしょにここまで
世目まま残ってる
とは...
まさに京町家に選ばれし
不才員長って気がするわ
と思ったのであった

※「織屋建」は、西陣織の機織（はたおり）がされる家の形です。家の奥が仕事場で、機織を置くため、天井が高く吹き抜けになっているのが特徴です。



四条町大船鉾会所
改修プロジェクト

ユネスコアジア太平洋
文化遺産保全賞の
最優秀賞受賞

この度、ワールド・モノユメント財団、公益財団法人四条町大船鉾保存会、特定非営利活動法人京町家再生研究会及び公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターが行った四条町大船鉾会所改修プロジェクトが、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が実施する「2018年アジア太平洋文化遺産保全賞（The 2018 UNESCO Asia-Pacific Heritage Awards for Cultural Heritage Conservation）」において、最優秀賞（The Award of Excellence）を受賞しました。

四条町大船鉾会所改修プロジェクトの経過

フリーマン財団（米国）の協力を得たワールド・モノユメント財団（米国）から総額28万2千ドルの支援を受けました。2017年4月に改修工事が完成後、竣工記念式典を開催し、所

有者の公益財団法人四条町大船鉾保存会が祇園祭の会所として活用しています。会所は景観重要建造物、歴史的風致形成建造物に指定されています。

世界の2018年アジア太平洋文化遺産保全賞受賞者について

特別賞のThe LAMO Centre（ラダック、インド 写真①）は、インドのラダック旧市街地の17世紀に由来する宮殿ふもとに、王家に仕える大臣の住居として建築された建物で、長年に渡る修復を経て芸術センターとして活用されています。功績賞には5 Martin Place（シドニー、オーストラリア 写真②）、Aijing Zhuang（福建省、中国 写真③）などが選ばれました。



写真① The LAMO Centre



写真② 5 Martin Place



写真③-1 Aijing Zhuang



写真③-2 Aijing Zhuang

ユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞とは

民間部門及び官民共同の取組によるアジア太平洋地域における遺産としての価値を持つ建造物、場所及び資産の保全又は修復の優れた成果について表彰するものです。今回は8ヶ国・41件の

応募があった中から最優秀賞を受賞しました。過去の最優秀賞は、「藍屋（ブルーハウス）」建築群（2017年、香港）など、国内初受賞は少名彦神社参籠殿（2016年、愛媛県大洲市）です。

ユネスコによる講評の概略

この20世紀初頭に建てられた京町家の再生プロジェクトは、危機に瀕する木造建築群「京町家」の保全と京都の歴史を象徴する祇園祭の継承に関わるものである。細部に至るまで修復された建物は、150年ぶりに復興し巡行に参加した四条町大船鉾の伝統行事の中心となる場所、「会所」として再生された。入念な考証と的確な保存技術により、このプロジェクトは実行された。住宅であった町家は、町内の会所としての機能・役割を持った歴史的な建物として再生された。町家再生に関わる専門家組織と技術者の協働による修復は、伝統的建築における革新的な取組といえる。このプロジェクトは、無形文化遺産である祇園祭とその拠点である会所を一体として保全・継承をしていくという模範例を示している。

原文

Award of Excellence Shijo-cho Ofune-hoko Float Machiya, Kyoto, Japan
The renewal of this early 20th-century machiya celebrates Kyoto culture through the safeguarding of the city's endangered wooden townhouse typology as well as the iconic annual Gion Festival. The meticulously restored building today houses the Ofune-hoko float, itself resurrected after a 150-year hiatus to regain its place of pride in the annual ritual parade. Through careful documentation and a light-handed approach to conservation, the project has transformed a residence to serve a meaningful communal function in a manner that has enhanced the ethos of the historic building. Undertaken by master carpenters in collaboration with conservation experts, the artful conservation work showcases innovation within a traditional architectural context. The project sets a model for its seamless approach to safeguarding built heritage intertwined with intangible cultural heritage in a mutually enriching way.

「The Best in Heritage 2019」にて、さらに世界へ発信

今回の受賞の結果、文化遺産保全に成果を収めたプロジェクトや世界各地の博物館が成果報告や交流を行う国際会議である、The Best in Heritage 2019（開催国：クロアチア）に招待されました。この国際会議はThe European Heritage Association

が主催し、ヨーロッパ・ノストラ（Europa Nostra）、ICOM、ICOMOS、ICCROMなど国際的な文化遺産保全に関わる団体の支援のもと、今年にはクロアチアのドゥブロヴニク市において地元

大船鉾と会所、「歴まちカード」でも人気

歴史まちづくりに取り組む都市の魅力を発信する「歴史まちづくりカード（歴まちカード）」が平成30年11月から配布されています。近畿地方では国土交通省と11都市が連携し、各都市の歴史、伝統、活動を名刺サイズのカードで紹介しました。京都市のカードは、大船鉾と改修された会所の写真で、当財団窓口で539枚を配布しました（2月末現在）。

「歴まちカード」は近畿では彦根市、堺市、奈良市などで配布されています。祇園祭の後祭巡行で、しんがり

つとめる大船鉾は幕末の蛤御門の変で焼失しましたが、平成26年に約150年ぶりに復興し、巡行への参加が実現しました。カードでは、華やかな懸装品に彩られた大船鉾がゆくりと進み、会所がハレの日の舞台を演出している様子がよくわかります。



近畿地方の「歴まちカード」の詳細は、国土交通省近畿地方整備局のホームページで見ることができます。当財団窓口では京都市のカードのみ配布しています。 <https://www.kkr.mlit.go.jp/kensei/town/rekimachi/index.card.html>



織屋建探訪

京町家まちづくりファンド
事業報告会／京町家見学会

京町家まちづくりファンドは、京都らしい町並みの保全と京町家の再生を支援するため、平成17年に設立された基金です。今年度の事業報告会は、ファンド改修助成事業に選定され今まさに改修中の「服部邸」を会場に、ファンドにご支援いただいている皆様に1年間の事業報告を行うとともに、服部邸を併せた3軒の「織屋建て」の京町家の見学会を行いました。

参加者
30名

事業報告会 平成31年3月6日(水)13:30～15:00

まちセンからの事業報告の後、京町家まちづくりファンド委員長の大場修氏（京都府立大学大学院教授）より、京町家の現状や織屋建ての造りや魅力についてご説明いただきました。実際の織屋建ての空間を体感しながら聞くことで、より一層関心が高まり、参加者の皆様も熱心に聴いておられました。

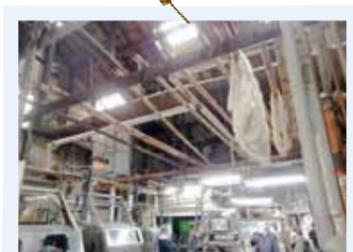
次に改修助成事業に選定された町家の所有者を代表して、服部様より、京都の町並みや京町家、さらにはそれを支えるコミュニティや文化への思いや、今後の取組についてお話いただきました。ファンドを支援する方が、助成を受けられる方の思いを直接聞く事により、ファンドの役割を改めて実感していただけたのではないのでしょうか。



服部邸
設計者の伊熊氏の解説



生駒邸
所有者の生駒氏のお話や、調査をされた建築士北條氏の説明を聞く



北村善染工所
作業の様子を見学



参加者
55名

京町家見学会 15:00～16:30

事業報告会の終了後、同じ3軒の京町家を会場に、自由な時間に見学できる見学会を行いました。あいにくの雨模様にもかかわらず、建築士や大工さん、教員や学生さんから地域の方まで、3軒合わせて43名の方にご来場いただき、関心の高さがうかがえました。

京都市京町家相談員も12名参加され、知見をさらに高めていただきました。

「織屋建て」とは…

西陣織の機織の作業を行うのに適した家のかたちです。家の奥が仕事場になっており、手機や力織機などの織機を並べて作業が行われます。仕事場は土間が多く、吹抜けになっており屋根裏が直接見え、天窓から光を取り入れます。

伝統の仕事を受け継ぐこと

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介します。今回は、京町家を伝統技術で支える大工さんをご紹介します。



辻 勇治氏 株式会社辻工務店 代表／二級建築士

1969年、京都市生まれ。高校卒業後、父と叔父の手ほどきにより2年半大工仕事を教わった後、修業に出る。30歳で父の工務店の看板を引き継ぎ、京町家や古民家などの伝統構法を専門に手掛ける。四条町大船鉾会所（P2参照）の改修工事にも棟梁として携わる。京都市の京町家相談員（大工）。

大工のしごと

工務店を営む父がきっかけで大工になりました。以前から、職人が働く姿を身近で見て魅力を感じていました。

先人の技術を受け継ぐ大工の仕事は、昔から普通に行われてきたことですが、京町家に関わる技術者の減少には危機感を覚えます。大工だけではなく他の職人でも、若者に技術を伝えるシステムがなくなりつつあります。

京町家のしごと

京町家の改修では、隣近所との兼ね合いや、どこを残してどこを直すかの判断が必要です。技術的なことより、そういった線引きが難しいです。

京町家のような伝統工法の建物の特徴は、耐用年数が長いこと。良い素材のおかげだと思います。近年の改修で使われた合板が、古い部分よりも先に傷んでいる例を多く見ますが、それでは意味がありません。素材をきちんと選ばないといけないと思います。

建物は大工だけでは完成せず、他の専門の職人との連携が不可欠です。互いに納まりを確認し、知識を教えあいながら進めます。

大船鉾の会所の改修工事では、建物の状態が良かったため、技術的な苦労はありませんでした。一方で、町会所という性質上、関係者の数が多く、意見の取りまとめが大変でした。

構造材まで腐った京町家を改修した際、スケルトンにしたタイミングで地震に見舞われましたが、建物は無事でした。京町家はどんな状態からでも直せる、と改めて思いました。

伝統建築の職人の未来

京都には古い建物の仕事に恵まれ、技術を習得する場が多い。職人の未来のために、人材育成や職人のネットワーク構築より重要なことは、仕事がある状況を残すことだと思います。

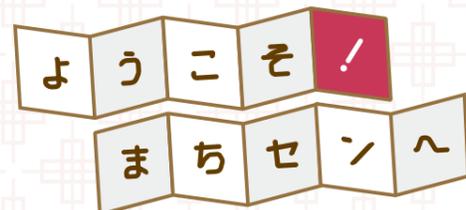
他都市でも伝統建築の改修に携わりますが、どの地方も伝統的な建築の木組は同じ。地域によって「勝手」は異なりますが、基本は共通しており、技術の基礎があれば対応できます。一方で、将来のメンテナンスを考えると、改修には地場の職人が携わるべきだと思います。京都の職人と地場の職人が組む仕組が不可欠だと思います。



改修中の町家の外観



改修中の町家の内部



京町家の説明に耳を傾ける
韓国全羅南道のみなさん



視察でまちセン*を訪れた方をご紹介します「ようこそ！まちセンへ」。今回は韓国全羅南道の公務員の5人のみなさんです。少子化・高齢化に伴う空き家問題を解決するヒントになればと、昨年11月にまちセンをご訪問されました。

全羅南道は韓国の西南部にある行政区です。日本の瀬戸内海のように、沿海に多くの小さな島があり、韓国でも有数の穀倉地帯です。

当財団の梶山次長が、京都のまちづくりや京町家の特徴、活用事例、改修の助成制度などについてご説明しました。京町家まつわりの4択のクイズも出され、みなさん、時間をかけて考えていらっしゃいました。

質問の時間には、「京町家の調査では、費用はどのように捻出したのですか」「京都市役所には空き家、京町家担当の部署がありますか」といったご質問が寄せられました。最後に代表の方が、「韓国も日本のように、古い住宅がゲストハウスやカフェにされることが多い。今日の経験を参考に、空き家の問題を考えていきたい」とお話になり、記念写真を撮って、まちセンを後にされました。

今回いただいたお土産はコチラ

華元窯の急須とお茶碗。ぬくもりを感じます。



*まちセン＝公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

私と京都



京都信用金庫 理事長
榎田 隆之さん

人と人が集う温かい交流の場

京都信用金庫は昭和46年にコミュニティ・バンク宣言をして以来、「地域の皆様の役に立つ金融機関」を目指してまいりました。

現代の成熟社会において地域における人々の繋がりや温かい人間関係が希薄になる中、金融サービスを通じて地域社会に新たな社会的紐帯、人々の絆を育むこと、そんな場所を創ることが私達の使命だと考えています。

他人の「お節介を焼く」、みんなが「寄ってたかって」助け合うことでコミュニティが形成され、コミュニケーションが豊かになることが地域の豊かな未来につながって行くのではないのでしょうか。「向こう三軒両隣」と言われるような昔あった小さなコミュニティがあらこちらにできて、その繋がりから生まれる気づきやイノベーションが強く求められる今、京都信用金庫はおお客様の関心事にお節介を焼き、人と人が集う温かい交流の場の創造を目指してまいります。

私達が生活し仕事をするこの地域を、豊かで明るい未来ある街としていくために創造性溢れる街にしていかなければなりません。自分たちがどのような街にしたいかをイメージしデザイ

ンして、みんなで考えることが必要であると考えます。しっかりとした考えを持って文化ビジネスに取り組む、「若者、よそ者、馬鹿者」や、社会課題に対して強い意識を持った起業家と一緒に考えて事業をすることで京都にクリエイティブなイノベーションが起こっていくのではないのでしょうか。

ゆたかなコミュニティ（地域社会）を創造していくためには、

- ①場づくり（多様なバックグラウンドを持つ人々が集う交流の場をつくる）
 - ②寄ってたかって（オープンな環境のもと、集まった人が皆で課題解決に取り組む）
 - ③お節介を焼く（お節介を焼く人がいて初めて人と人がつながる）
 - ④先駆者の真似をする（自分で何もかもできなくていい。いいところは真似をしてでも取り入れる柔軟な姿勢を持つ）
 - ⑤他流試合（自分とは違うフィールドに飛び込み価値観の異なる人と出会うことで新たな気付きや学びが生まれる）
- そんな仕組みを作っていくことがコミュニティ・バンクとしての京都信用金庫の使命だと考えています。

平成31年度賛助会員募集中!

当財団は、住民・企業・行政が力を合わせて、美しい京都のまちを守り育てていく、パートナーシップのまちづくりを推進しています。活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集しています。

年会費	
個人 1口	5,000円
団体 1口	50,000円

入会をご希望の方は、当財団にお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。
賛助会員お申込みのご案内ページはこちら → <http://kyoto-machisen.jp/partner>

※当財団の賛助会員は、公益財団法人に対する寄附として、税の減免措置を受けることができます。

- 特典1 ニュースレター「京まち工房」の送付
- 特典2 各種セミナー・イベントのご案内（随時）
- 特典3 当財団ホームページへのバナー掲載（団体会員のみ）

平成30年度は下記の皆様にご入会いただきました。ご支援ありがとうございました。

- 個人会員 赤星 周平、秋山 智則、足立 和康、網野 正観、荒井 孝、荒金 博美、荒川 朋彦、生駒 勲、石原 敏彦、石原 一彦、稲木 藍、稲波 良幸、井上 誠二、井上 信行、井上 道子、伊藤 真嗣、伊藤 正人、井山 和男、岩崎 清、岩崎 亘男、上田 菜穂、上原 智子、卯滝 朝子、梅澤 優司、江田 頼宣、大井 康光、大崎 弘晃、太田 滋子、太田 昌志、大西 功、大前 温彦、岡崎 篤行、岡田 圭司、岡本 正二、奥 美里、小田 厚子、梶山 真樹、片山 隆一、門川 信一郎、狩野 文博、上田 千喜、加味根 徹也、河崎 尚志、河村 宏、川本 淳一、北川 洋一、木股 博一、木村 忠紀、木村 真紀子、刑部 多恵子、来海 賢一、桑原 尚史、小嶋 新一、小谷 啓太、小西 正直、小西 吉治、小林 仁大、小山 幸司郎、酒井 教昭、坂本 登、坂本 正壽、佐々木 亮太、佐竹 和男、佐藤 七重、佐藤 友一、真田 松寿、鮫島 恵子、柴崎 孝之、島田 和明、清水 博之、杉崎 和久、杉田 美、杉本 昇治、鈴木 知史、炭崎 勉、関岡 孝繕、高川 祐子、高木 勝英、高木 貴子、高木 伸人、高橋 ありす、高橋 宏幸、高畑 重勝、立石 涼一、田中 照人、多見 貞子、谷口 一郎、谷村 寧昭、玉山 秀文、玉山 千映子、辻 勇治、寺井 正、寺島 彰、寺田 泰三、寺田 敏紀、寺田 史子、寺谷 淳、寺本 健三、内藤 郁子、中川 幸嗣、中島 吾郎、中島 弘益、中司 小百合、中村 進一、中村 有希、中山 雅永、西川 武士、西澤 享、西田 祐司、西村 健、野間 久世、橋本 操、齒黒 健夫、旗 哲也、畑 正一郎、早崎 真魚、林 建志、林 茂、林 道弘、速水 孝治、平井 義也、平竹 洋子、吹上 裕久、福林 文孝、福本 元気、福本 紗和、藤田 裕之、藤本 英子、藤原 正行、二松 康、富名腰 隆、船橋 律夫、文山 達昭、古川 吉則、平家 直美、Bobier Nicolas、堀 有輝子、牧野 忠廣、松木 一恭、水口 義晴、水谷 新太郎、宮川 邦博、宮川 明子、宮崎 秀夫、宮本 日佐美、宮脇 和生、村瀬 和子、村瀬 喜則、望月 幸夫、森川 敏隆、安本 典夫、柳原 博實、山内 典子、山下 善彦、山本 耕治、山本 茂、吉田 光一、吉田 就一、吉田 友彦（五十音順、敬称略）
- 団体会員 株式会社アーキスタイル、大阪ガス株式会社、ぐるっとVIEW、京ぐらしネットワーク、京都駅ビル開発株式会社、公益社団法人京都市観光協会、京都信用金庫、京都中央信用金庫、一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会、京都ライフソリューション株式会社、京町家居住支援者会議、サッポロビール株式会社、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹、住宅金融支援機構、be京都、一般社団法人相続相談センター、株式会社地域計画建築研究所、株式会社中蔵、株式会社八清、株式会社フラットエージェンシー、平安建材株式会社、株式会社都ハウジング、立命館大学歴史都市防災研究所（五十音順、敬称略）

京都人々の京都知らず 編集後記

今回は、グレゴリさんに織屋建の町家の調査にご同行いただき、建物の素晴らしさと同時に、大場先生の京町家への熱い想いを体感していただきました。まちセンからは、大場先生の教え子でもある京町家カルテ担当の小出が同行しました。先生とグレゴリさんに周辺地域の様子を知っていただくために、調査開始の1時間前にお集まりいただき、小出の企画による京町家探訪ツアーを行いました。しかし、京町家の宝庫である地域を大場先生の解説とともに歩くには1時間は短すぎたようで、予定の行程の半分も消化できないまま終了時間となりました。ただ、ツアーの隠れた目的は、1軒1軒の京町家を仔細に観察なさる先生の様子をグレゴリさんにご覧いただき、京町家保全に関わる個性豊かで熱心な人々のことを知っていただくことでしたので、その目的は十二分に達成できたと思います。



(花崎)



著者：グレゴリ青山

漫画家、イラストレーター。1966年、京都市生まれ。壬生の地で生まれ育つ。現在は京都府亀岡市在住。京都人による京都発見本『深ぼり京都さんぽ』（集英社インターナショナル）、京都が舞台の少女漫画『薄幸日和』（小学館）、京都のガイドブック『ねうちもん京都』（KADOKAWA）など、京都関連の著書多数。

洛中洛外図屏風の魅力たっぷり 5月にギャラリートーク

次回の
ギャラリートークは
5月3日に
開かれます。

京都市景観・まちづくりセンターでは、安土・桃山時代に活躍した絵師、狩野永徳が京の市街（洛中）と郊外（洛外）の風俗を描いたという「国宝 上杉本 洛中洛外図屏風」を再現した複製パネルを展示しています。

見があるところです。日本美術の名品というだけでなく、建築・都市史など、様々な角度から観賞できるのが面白いですね」と富名腰さんはおっしゃっています。うらかな春。洛中洛外図の魅力味わうため、ぜひ、まちセンにお越しください。

この屏風の原本は、永禄8（1565）年頃に完成し、織田信長が上杉謙信に贈ったと伝えられ、現在は山形県の米沢市上杉博物館が所蔵しています。まちセンにある複製パネルは、現代のデジタル技術で細部まで再現し、祇園祭の山鉾巡行や紅葉狩りを楽しむ人々の様子が生き生きと描かれています。

まちセンではこの屏風の魅力を知ってもらおうと、展示ボランティアとして活躍している富名腰隆さんを講師にギャラリートークやパネルトークを開いています。「洛中洛外図屏風の魅力は、何回見ても新しい発

